仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修について

【基礎研修】

研修期間 研修日時	(1) 前期研修：令和６ 年５月 24 日（金）～6 月 21 日（金） (2) 後期研修：令和６年 11 月５日（火）　13：30～16：55
研修方法	(1) オンデマンド研修　（せんだい Tube による配信） (2) 集合研修
対象者	＊相談支援事業所等、及び仙台市内の障害福祉分野関連事業所にて勤務する１～5 年目の職員 (1) 相談支援事業所に加え、仙台市内の障害福祉分野関連事業所（共同生活援助、就労継続支援等）職員、行政職員。 (2) 上記（1）を受講した方で、振り返りシートを提出済みの方。(84 名)
参加者数	(1) 前期研修申込者：137 名 (2) 後期研修参加者：41 名 相談支援事業所、児童発達支援センター、放課後等デイサービス、就労継続支援事業所、共同生活援助、宿泊型自立訓練、生活介護、訪問介護サービス、地域包括支援センター、行政職員　等
獲得目標	＜個別支援＞ ① 生活者の視点に立った障害者（児）のニーズを理解する ② ニーズに近づくためのプロセスや考え方・手法を理解する ③ チームアプローチを理解する ＜地域支援＞ ① 個別支援で把握した課題を共有する機会の大切さを理解する ② 地域内にある他の事業所を理解する ＜人材育成＞ ① 自分の得意不得意を知る ② 自分の研修計画を立てられるようにする
内　容	(1)　前期（オンデマンド）研修 講師：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科長　教授　三浦　剛氏 障害者相談支援事業所くれよん　福地　真衣子氏 ウインディ広瀬川　髙梨　直樹氏 障害者相談支援事業所サポートはぎ　髙橋　克弥氏 内容：オリエンテーション、研修手帳の説明 講義「ケアマネジメント概論」「ケアマネジメント実践」 障害のある人たちへの支援の原則 障害がある人への支援のプロセス 地域における連携の要点 （２）　後期（集合）研修 講師：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科長　教授　三浦　剛氏 精神障害者家族１名 難病当事者１名（仙台市障害理解サポーター、仙台市障害者相談員） 内容：前期（オンデマンド）研修の振り返り 当事者からのメッセージ（当事者の立場から、家族の立場から） 当事者からのメッセージを受けて改めて自身の支援について考える （個人ワーク・グループワーク） 研修手帳の活用について

研修実施における工夫点	（1）前期（オンデマンド）研修 ・オンデマンド研修は対象者拡大にかかる手法として一定の効果があり、障害者ケアマネジメントの基本的な理念や手法を普及させていく効果的な方法であると判断して R5 年度から継続。 ・今年度はより多くの受講者が参加できるよう開催期間を工夫した。(R5 年度は宮城県障害者相談支援従事者初任者研修時期と重なっていた) ・内容としては、三浦教授による講義「ケアマネジメント概論」を基本とし、その中の各論（「障害のある人たちへの支援の原則」「障害がある人への支援のプロセス」「地域における連携の要点」）について、地域で障害者支援に携わっている職員 3 名から、日頃の地域実践を踏まえた具体的な講義を行い、初任者等がより理解しやすく工夫した。 （2）後期（集合）研修 ・参加者が普段接していない障害のある方（あるいはそのご家族）からの講話は、受講に向けてのモチベーションを上げられると想定し、難病当事者からの講話を実施。事前に講話を録画したり、インタビュー形式の講話としたりする等、当事者の事情に配慮した。 ・講師との事前打ち合わせを丁寧に行うことで、本研修の獲得目標を共有・確認した。前期研修では直接取り扱えなかった＜人材育成＞（自己覚知）についても学びを深めることができた。
次年度に向けて	・前期（オンデマンド）研修と後期（集合）研修の形式を継続。 ・前期（オンデマンド）研修内容は、要点がまとめられており、各受講者が自分のペースで受講できる点も高評価であったことから、次年度も同様の内容で開催。開催時期も、他の研修等が重ならないように配慮し、R6 年度と同様の時期に開催したい。 ・後期（集合）研修は、それぞれの研修内容をじっくり受講できるよう、研修時間の見直しを図る。 ・当事者やその家族からの講話、並びにそれに関するグループワークという構成は、受講者にとって、分かりやすく深く響く内容であり、獲得目標の全てを網羅できることから、今年度と同様の構成で実施するのが適切と考える。

【実践研修】

研修日時	実施日：令和７年２月５日（水） 時間：13：30～17：00
研修方法	集合研修
対象者	研修目的を踏まえ、研修を受講した方のチームアプローチ実践の一助とするため、様々な職種の方が参加できるよう「(仙台市内の）障害福祉サービス事業所等に所属する者」とし、かつ、「実践研修」という点を勘案し、経験年数（現在の職種の）3 年以上の職員とした。
参加者数	33 名参加 ・職種は様々で障害福祉サービス事業所の相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者、相談員や医療機関からは作業療法士、機能訓練士の他、保育士、保健師の参加があった。 ・受講者の経験年数（現在の職種の）は「3 年～5 年目」、「6 年～10 年」、「11 年～20 年目」のうち、「3 年～5 年目」の層の職員の参加が 17 名と最も多かった。
獲得目標	個別支援や人材育成における、チームアプローチの実践ができること。
内　容	＊獲得目標を踏まえ、チームアプローチの実践プロセスを振り返り、チームアプローチを円滑に進めるために必要な視点や手法を習得すると共に、本研修を通じ、受講生同士が互いに学び合い、高め合うこと目的とした。 研修テーマ：「実践！チームアプローチ！」 ①講師からの講話および実践者からの実践報告 講話：「相談支援におけるチームアプローチ」 講師：東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科 教授 竹之内　章代　氏 実践報告①：「チームアプローチの実践報告（相談支援専門員の視点から)」 報告者：仙台市障害者基幹相談支援センター 主任相談支援専門員 熊谷 経子 氏 実践報告②：「チームアプローチの実践報告（精神科医療機関での経験を踏まえて)」 報告者：一般社団法人そわか代表理事（相談支援専門員） 齊藤 健輔 氏 ②グループワーク（意見交換） 受講者同士が自身のチームアプローチの実践を振り返り、研修講師および実践報告者の講話を踏まえ、チームアプローチに必要な視点、手法について意見交換を実施した。 ③トークセッション グループワークにおいて抽出された意見を取り上げ、研修講師・実践報告者と受講者の対談、質疑応答、各事業所の良い取り組みについて情報共有を実施した。 ④講評 研修講師・実践報告者より、研修全体を通じ、改めて「チームアプローチ」の実践にかかる課題や必要な視点、手法について講評をいただいた。
研修実施における工夫点	チームアプローチの実践にかかる事前質問（アンケート）を実施し、研修までの間に自身のチームアプローチの実践について振り返り、当日に講師の講話、実践報告者からの実践事例を聴き、考えを深め、チームアプローチについて具体的にイメージしながらグループワーク（意見交換）につなげられるよう、研修を構成した。
次年度に向けて	(1)研修の運営について ・受講者が理解を深められるよう、実践を具体にイメージできる実践報告、グループワーク（意見交換）の手法の工夫、十分な時間の確保、また、グループワークを進行するファシリテーターが研修の意図、研修の目的に沿って進行できるよう、適時適切な情報共有に努める。 (2)研修自体の課題について ・研修のテーマについて受講者の関心は高く、講話内容は半数以上の受講生が「理解できた」と事後アンケートに回答していた。しかし、本研修で学んだことが実際に自身の個別支援に還元できているか（できたか）といった点については、効果検証の必要があり、そこから改めて個別支援にかかる課題を抽出し、研修を企画する必要がある。